

平成 16 年度

教材委員会 研究協議会報告

日時：平成 16 年 10 月 20 日（水）
14:30～17:30

場所：青山環境デザイン研究所

講師：渡邊 光子 氏

(株)メセナ青山 代表取締役

青山環境デザイン研究所 所長

一級建築士事務所

エコ・福祉住環境研究所 代表取締役

NPO 法人福祉・住環境人材開発センター 理事長

城西国際大学福祉環境情報学科講師

東京商工会議所女性会 常任理事

福祉住環境コーディネーター検定試験の提唱者。

福祉・医療・住環境に関わる専門職の育成と

フォローアップを基本に福祉住環境の業界に幅

広いネットワークを持ち、新しい人材開発に取り

組まれている。

内容：「福祉住環境コーディネーター誕生の社会背景と役割」

教材委員会として「福祉住環境コーディネーター検定試験」を取り上げて 2 年目となる。この間 2 度のアンケート調査により、会員校の認知度と取り組み状況の把握を行ってきた。その結果、まだまだこの検定試験に対する認知度が低く、内容の理解も不十分である現状を目の当たりとする事となった。そこで、そこで私達委員も改めて「福祉住環境コーディネーター検定試験」について理解を深める事が必要と考え、この検定試験の創設者である渡辺光子先生より直接ご講義頂き、今後の私達の取り組みについてアドバイスを頂く場を設けた。



渡辺光子氏からのメッセージ

ついに、わが国は世界一の高齢社会にな

りました。今後、ますます多くなる高齢者、障害者にとってわが国の住環境は、決してやさしい環境とは言えず住宅問題や福祉サービスのあり方などさまざまな課題を抱えているのが現状です。

私は、建築系の技術者の育成に関わって 27 年になりました。とくに高齢社会と住環境のテーマに取り組んで 15 年になります。その間保健・医療・福祉・建築・福祉用具などに関わっている専門職の方々や、見識者の方々に協力をいただきながらカリキュラムを構築してきました。そして、青山環境デザイン研究所のなかで社会人を対象に実務教育を実践し現在に至っており、多くの卒業生を産業界に排出してきました。

これらの当研究所の教育実績が東商検定「福祉住環境コーディネーター」の誕生の背景となっています。これからの高齢社会の中で、そこに暮らすすべての生活者にとって、キーワードとなってくることは、「健康」、「福祉」、「環境」そして「自立」があげられます。これらを具体的に実現していくためには、人にも地球環境にもやさしいユニバーサルデザインによる住環境整備やまちづくりが必要になります。

福祉とは、「住宅にはじまり住宅におわる」また「自分らしい暮らしの中で幸せになる」という意味をも持っています。今後とも福祉マインドを持ち高齢社会の現場に精通し、対応できる福祉住環境に関わる専門職の育成が必要である。

また講話の最後に、高齢者のなかでも特に痴呆性高齢者に対する療法として重要な役割を担う「ダイバーショナルセラピー(DT)」(様々なレクリエーションや創作活動を楽しむことを生活や介護の中に取り入れながら、高齢者や痴呆性、精神的ケアを必要とする人々の自立を目的)を生活支援のひとつに活かすためのケア手法と環境についてオーストラリアでの実践例のスライド等の紹介をいただいた。

文責：小島（教材委員長）